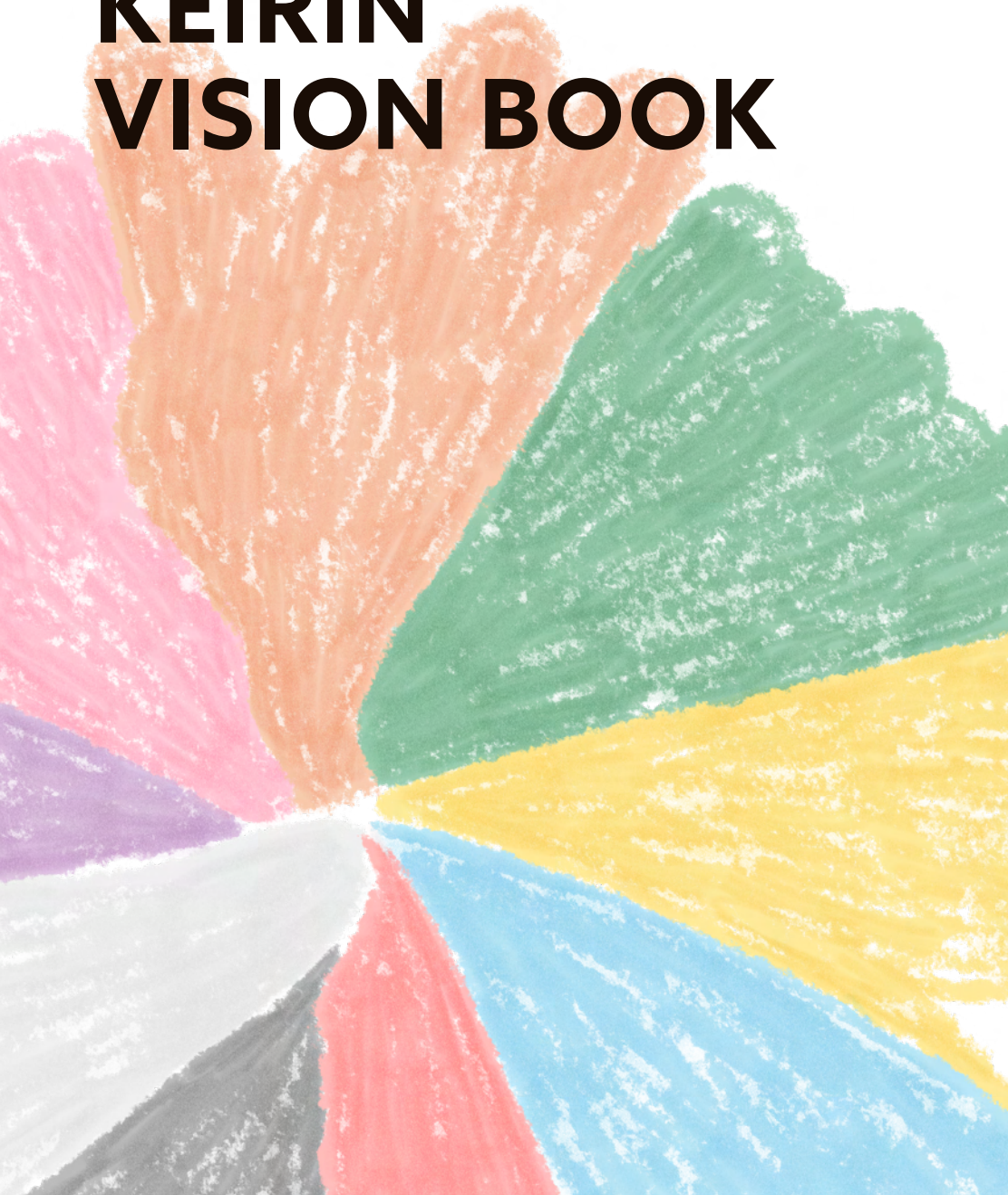
# TAKAMATSU KEIRIN VISION BOOK



このまちに、
競輪場が
ひらかれる日

# ひらかれた
# 競輪場をめざして。

1950年に開設された高松競輪場は、当初より熱気と歓声に包まれる場所として、多くの競輪ファンが集い親しまれてきました。時代の流れとともにまちの風景が静かに移り変わるなかで、長くこのまちの一角で、時を刻み続けてきた場所です。その場所がいま、“誰もが足を運び、語らい、思い思いに過ごすことができる、まちにひらかれた場”へと、生まれ変わろうとしています。
主役は、市民ひとりひとり。ここから始まるのは、まちと人がともに育みあい、時間をかけて関係を深めていく、新しいまちづくりの物語です。
2028年春の竣工を目指すこのプロジェクトは、高松のまちにある魅力と可能性を見つめ直し、次の世代に希望ある未来の姿を手渡していく旅でもあります。
このVision Bookには、そのはじまりの風景と、そこに込められた想いを丁寧に綴りました。まだ見ぬ誰かの心にそっと届き、未来をともに描くきっかけとなれば、これほど嬉しいことはありません。

高松競輪場再整備事業ワークショップレポート

# 競輪場のミライとは？

高松競輪場の再整備に向けて、プロジェクトに関わるコンソーシアム企業や高松市のメンバーが集い、未来の競輪場のあり方をともに考えるワークショップを、2024年11月から2025年1月にかけて全4回開催しました。立場や専門性を越えて、それぞれの視点や想いを出し合いながら、競輪場がこれからのまちの中でどうあるべきか、自由に語り合う場となりました。

## 第1回 経緯の共有

**2024.11.15 @ co-ba Takamatsu**

本プロジェクトの背景やこれまでの経緯、そこに込められた担当者の想いについて、参加者全員で共有することから始まりました。その後、競輪場が今後どのような場として再整備されるべきか、そのあり方を多角的に考えるため、国内の先行事例や関連分野の取り組みを参照しながら意見交換を行いました。また、再整備を進めるうえでの課題や論点を整理し、参加者同士で対話を重ねながら検討を深めていきました。

**対話から多種多様な意見が生まれた**

立場や専門性の異なるメンバーが自由に意見を交わすなかで、それぞれの視点から大切にしたい要素や、実現に向けたキーワードが少しずつ抽出されていきました。

担当者の想いを参加者で共有

## 第2回 現場の共有

**2024.12.04 @ オルタナティブ**

高松のまちの歴史や風土、土地利用の変遷を踏まえながら、競輪場周辺エリアに実際に足を運び、エリアの理解を深める取り組みを行いました。地域に根づく文化や暮らしの積み重なり、まちの成り立ちといった背景を多角的に捉え、競輪場周辺のエリアの特性や位置づけについて考察しました。

**歩いて気づく、まちの表情**

実際に歩いて各エリアの特徴を体感し、参加者同士の対話を通じて、普段は気づきにくいまちの一面にも理解を深めることができました。

丸亀町壱番街前ドーム広場で記念撮影

## 第3回 未来を描く

**2024.12.23 @ 稱讃寺**

第1回ワークショップでは本プロジェクトの背景や目的を確認し、第2回のフィールドワークでは、周辺エリアを実際に見て、得られた気づきや風景の印象を共有しました。そのうえで、参加者ひとりひとりの想いを起点に、「本プロジェクトで大切にしたいこと」「守りたいもの」について対話を通じて深めていきました。個々の言葉や経験をもとに、再整備プロジェクトで実現したいことを整理しながら、目指す未来の姿について意見を交わしました。

**この場所の未来に向けて大切なこと**

グループごとに「この場所で大切にしたいこと」を5つ抽出し、キーワードとして書き出して共有しました。

ワークショップの会場は稱讃寺の本堂でした

参加者個人によるプレゼンテーション

## 第4回 未来を形に

**2025.01.15 @ co-ba Takamatsu**

第3回のワークショップをもとに描かれた「10年後のありたい姿」を起点に、そこに至るまでの過程や日常のイメージを具体的に深めていきました。その姿が実現されたとき、高松のまちや競輪場ではどのような活動が行われ、どのような人々の営みが生まれているのか。どんな風景が広がり、日々の暮らしはどのように変わっているのか。そうした問いを重ねながら、未来の風景を描くために必要な要素や視点について意見を交わし、参加者それぞれの想いや考えを広げていきました。

**参加者全員によるプレゼンテーション**

実現に向けて自分が取り組みたい行動をひとりひとりが言葉にし、宣言として共有しました。

ミライの競輪場あるべき姿とは。

# 私たちのアイデア

ワークショップでは、それぞれの立場や経験から、個人の想いが言葉となって交わされました。そこから生まれたアイデアのひとつひとつには、未来の競輪場で見てみたい風景、ありたい日常の姿が描かれています。自由な発想と対話を通じて芽生えた、まだ名もない風景の種たち。ここでは、参加者の声から生まれた多種多様なアイデアの一部をご紹介します。

景色を楽しむ

みんなの居場所

ワクワクドキドキ

まちのランドマーク

世代を超えて
受け継がれるもの

高松らしさ

人に話したくなる場

日常と非日常の共存

T級グルメ

安心・安全に過ごせる場

持続性
～終わりなき挑戦～

アクセス不問

脱 迷惑施設

暮らしがにじみ出す

自慢したい場所

Feel Setouchi Season

市民からの共感

豊かな自然環境をつくる

アートに感じる自然

地域への還元

地域の人が
我が事として関わる

チャリ裏

シズル感のある場所

高松のハチ公前

五感で感じる高松

文化をつくる

いい雰囲気のお店

街の回遊拠点

子どもに愛される
チータカ広場

わたしの指定席

《 さまざまな意見や対話の中から目標=ビジョンを作りました。 》

高松競輪場再整備事業で

## 大切にしたい9つのこと。

高松競輪場の再整備は、単なる建物の更新ではありません。これからの時代にふさわしい“ひらかれた場”として、まちと人の関係を見つめ直し、市民のみなさまとともに未来をつくる、まちづくりのひとつのかたちです。この場所がどうあってほしいか。どんな風景が生まれてほしいか。プロジェクトメンバーとの対話や、地域に根ざした視点を重ねながら、高松競輪場を再整備するにあたり本当に大切にしたいことを、9つのビジョンにまとめました。ここにあるのは、未来を語るための言葉であり、このまちにそっと手を添えるような、小さな想いをかたちにしたものです。

1 新しい競輪場の姿を描く

2 誰もが気軽に集える場となる

3 地域のみなさまとともにつくる

4 豊かな自然環境を守り、育む

5 文化を集め、広げていく

6 コミュニティを育む

7 永く残る価値をつくる

8 地域の資源をつなぎ、活かす

9 高松の新たな「顔」となる

# 1 新しい競輪場の姿を描く

かつて閉ざされた印象のあった競輪場を、明るくひらかれた場所へと再生していくこと。それは、笑顔が生まれ、希望が芽吹く風景をこの地に描きなおすことでもあります。観戦のためだけでなく、公園にふらりと立ち寄るように、誰もが気軽に集い、語らい、日常の中で自然に交わる場所へ。従来のかたちにとらわれず、自由で革新的な発想をもって、まちにひらかれた“新しい競輪場”をつくりあげていきます。

## 2 誰もが気軽に集える場となる

ふらりと立ち寄り、思い思いの時間を過ごせる。ここは、子どもから大人まで、観光客も、暮らす人も、誰もが等しく過ごせる場所。日常の延長にありながら、少しだけ心がほどける。そんなあたたかな風景が、まちのなかに広がっていく。集うことで生まれるにぎわいが、まちの呼吸となり、高松らしさを映し出す。この場所が、人とまちをつなぐ「場」となり、地域の新たな「居場所」となることを目指します。

# 3 地域のみなさまとともにつくる

この場所をどうひらき、どんな未来を描いていくのか。その答えは、まちに暮らす人々のなかにあります。ひとりひとりの声に耳を傾け、ともに語らいながら、あり方を重ねていく。小さな気づきや、ささやかな想いが、この場所の輪郭を形づくっていきます。つくることに関わるすべての人が、まちの未来をともに描く人たち。この競輪場は、地域のみなさまの手や想いで、生まれ変わっていきます。

## 4
# 豊かな自然環境を守り、育む

この土地に息づく自然は、長い時を超えて受け継がれてきた、かけがえのない贈りもの。その品位を敬い、次の世代へと丁寧に手渡していくことが、私たちの願いです。風土に根ざし、まちの暮らしや文化を育んできた自然環境を、地域のみなさまとともに守り、育んでいく。そよぐ風や光の揺らぎ、土の匂いに、生命の力強さを感じられる場所へ。人と自然が共に息づく風景が、ここに広がっていきます。

# 5 文化を集め、広げていく

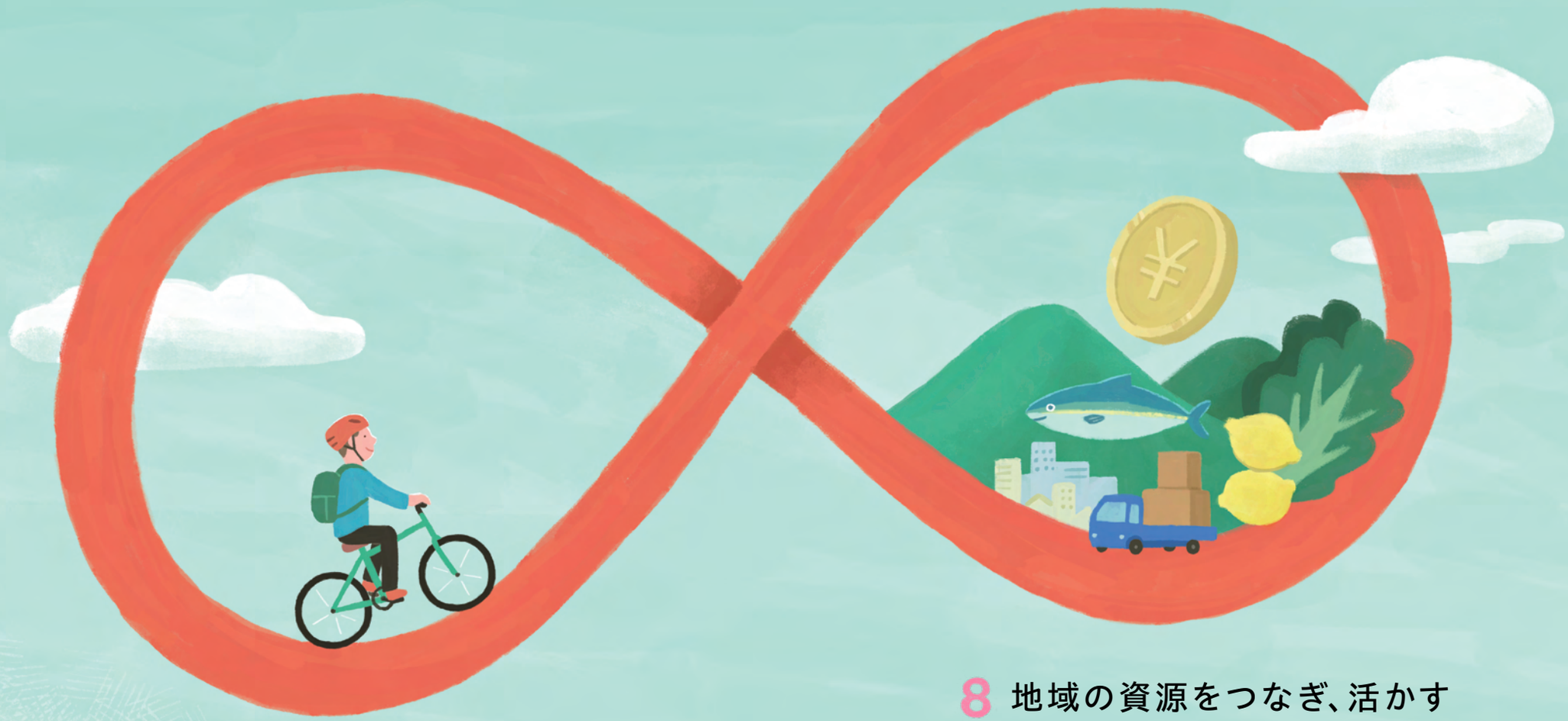
この土地の風土が育んできた、手仕事や言葉、音やかたち。高松に息づく創造と伝統の文化を、丁寧に集め、守り、そっと未来へ手渡していく。それは、まちを想う心のかたちであり、市民の誇りそのもの。やがてその文化は、次の世代の手で、新たなかたちへと育まれていきます。過去と未来が出会い、響き合う場所として、この地に文化の風が広がっていくことを目指します。

# 6 コミュニティを育む

ふと訪れた場所で誰かと出会い、言葉を交わし、心がふっとほどける。そんな小さな日々の積み重ねが、人と人との絆をゆっくりと育んでいきます。この場所で生まれる関係性が、多様な価値観や感性に触れるきっかけとなり、まちに豊かさを広げていく。笑顔が交わり、互いを認め合える空間。ここは、市民のみなさまにとっての居場所であり、誰もが気軽に集える、あたたかなコミュニティの拠点です。地域に活力とやさしさをもたらす、そんな日常がこの場所に息づいていきます。

# 7 永く残る価値をつくる

移ろう時の中でも、決して色あせることのないものがある。歴史がこの地に育んできた品位を大切に守りながら、日々の風景が上質で、心にやさしく響くものであること。にぎわいだけを求めるのではなく、思慮深く、情緒に満ちたまちのあり方を育んでいく。この場所に流れる時間そのものが、美しい記憶となって積み重なり、やがて未来にとっての「ふるさと」となるような、永く愛される価値を築いていきます。



## 8 地域の資源をつなぎ、活かす

高松で育まれた手仕事と知恵が、この場所に集まり、まちに息づく新たな営みを生み出していく。地元のつくり手が活躍し、地域の人の仕事がこの場に根づくことで、暮らしのなかに自然と循環が生まれる。買う人、つくる人、支える人、それぞれの役割が結び合い、まちに新たな価値が芽吹いていく。経済の流れが地にとどまり、次の創造を育む土壌となるように。この競輪場が、高松というまちの力をめぐらせ、未来を耕す場所となることを目指します。

## 9 高松の新たな「顔」となる

競輪場の再整備は、この場所だけにとどまらず、まち全体へと波紋のように広がっていきます。周辺の施設や空間とゆるやかにつながり合い、ひとつの風景として共鳴しながら、エリアに新たな動きを生み出していく。ここに集う人のにぎわいが、高松というまちの表情を少しずつ変えていく。そして、いつしかこの場所が、まちの未来を象徴する新たな「顔」として、多くの人に親しまれていくことを願って。競輪場を超えた、まちの希望の入り口が、ここにひらかれようとしています。

このVision Bookに綴ったのは、未来の競輪場の形ではなく、
この場所がまちにとってどんな風景になってほしいのかという、
私たちのささやかな願いです。

再整備という節目に立ち、私たちは考えました。
ここが、誰かの日常に寄り添う、あたたかな居場所になること。
子どもの笑い声や、語らいの時間、ふとした静けさが似合う
場所であること。

“競輪場”という名前を超えて、人とまちが自然に交わる風景
を、ひとつひとつ丁寧に描いていくことこそが、まちの未来をつ
くることにつながると信じています。

ここに示した9つのビジョンは、その出発点。
これからも、対話を重ねながら育み、広がり続けていくことで
しょう。

この場所が、高松の今と未来をつなぐ、
やさしい記憶のひとつとなりますように。

高松競輪場再整備事業プロジェクトチーム一同

**TAKAMATSU**
**KEIRIN**
**VISION BOOK**

<制作>
高松競輪場再整備事業プロジェクトチーム
代表企業：株式会社チャリ・ロト

<企画・トータルディレクション>
桜井 雄一朗（株式会社インチャ）

<ディレクションメンバー>
湯川 致光（株式会社HYAKUSHO）
瑞田 信仁（一般社団法人四国若者会議 ／ 稱讃寺）

<デザイン>
石原 由貴（matoi）

<イラストレーション>
キービジュアル：石原 由貴（matoi）
9つのビジョン：髙橋マサエ（radial）

2025年4月　初版制作